

わが社の新造船

運航Ⅱ鶴見サンマリン、船主Ⅱエムエスケイ

5770m³型 黒油タンカー「第十二松丸」就航

伯方造船(愛媛)で建造

鶴見サンマリン(東京都港区西新橋、馬越正文社長)は、エムエスケイ(長崎県長崎市、松藤章喜社長)を船主に、5770m³型内航黒油タンカー「第十二松丸」を11月21日に就航させた。

建造造船所は、伯方造船(愛媛県今治市、木元裕行社長)。荷主はコスモ石油で、各製油所間の転送を中心に黒油を輸送する。

新造船の最大の特徴は、伯方造船の最新の省エネ船型を採用し、船速および省燃費向上を図った点が挙げられる。

また、従前の5000k³型黒油船の貨物容積は約5050m³だったが、

本船は容積を5770m³に増量、大型化することで「積載時の安全性および積み付け率の向上を図っている」(同社)。

さらに、荷役制御室に中北製作所の「カーゴコントロールコンソール(グラフィック型)」を設置し、盤上の荷役配管系統図に付した各バルブの開閉切り替えスイッチおよび押ボタンを操作することによって、荷役バルブの開閉を遠隔制御可能とした。

とともに、当該操作中のバルブ開閉によって盤上の荷役配管上のLEDが線点灯し、さながら甲板上でライトアップしているように、誤操作を防

止でき、荷役作業の確実性を向上させた点も特筆される。

また、主機関については、ロングストローク式の省エネ型機種を採用し、油圧動弁装置により低騒音、油の飛散防止を図るとともに、「機関室内各機器・装置類を機能的に配置することで、機

関部乗組員の労務作業環境の改善を図っている」(同社)点も注目される部分だ。

そのほか、同船の主な特徴としては、①船首のバウスラスター装置の推力を上げ、かつフラップ式ラダーの採用によって、係船時の平行着棧がより安易になるとともに、操作性および安全性も向上の船体暴露部の諸部材にステンレス鋼を多用すること、ウレタン塗装の高防錆仕様を採用したこと、甲板部乗組員の整備・保船作業軽減を図っている③航海灯を含め船内外の全ての照明にLED灯を採用し、照度の向上と省エネを実現している。

船員の安全航行を配慮した最新機器を設置した船室環境改善への対応についても、①操舵室内を広く取り、また、四方の窓に大型窓(研磨・防汚コーティング加工)を採用。視認性の向上を図り、21インチ大型レーダー12台、電子海図表示装置(ECDIS)1台を搭載。船舶自動識別装置(AIS)など「他の航海計器類と機能的にリンクさせ、航海当直者の労務軽減と安全航海の確実性を向上させた」(同)

②荒天時錨泊中の把駐力向上のため、従前船より錨の重量を1ランク上げ、錨鎖も増節し延長。

風向風速計を採用し、船長室にもアラーム付き延長モニターを配置するとともに、「電子海図表示装置の延長モニターを船長室、食堂にも配置し、荒天時の走錨回避等の早期判断のツールを充実させている」(同)。

最新技術を結集した5770m³型内航黒油タンカー「第十二松丸」の主要目は次のとおり。

◇総トン数 4010トン

◇貨物容積 5770m³

◇全長 1104.930m

◇幅(型) 16.000m

◇深さ(型) 8.700m

◇満載喫水(マルチ) 6.205m

◇主機関 Ⅱ阪神内燃機工業製 LH46LA型 3309kW(4500PS)

◇満載航海速度(85%出力) 14.0ノット

